



潮中だより

紋別市立潮見中学校

令和8年1月30日発行



教育目標：自ら求めて学ぶ生徒 豊かな心と強い意志をもつ生徒 たくましい体をつくる生徒

【令和7年度スローガン】みんなが心地よい、笑顔あふれる潮見中！

今年度の重点：互いを高め合い、未来を切り拓く生徒の育成
～生徒が主人公となる授業・学級・学校づくり～

心の『ものさし』を重ね合わせて

校長 佐藤 隆

私は、新年を迎えたなど実感する瞬間の一つに、ニューイヤー駅伝や箱根駅伝を観戦しながら雑煮やおせちを食べるときがあります。

今年の箱根駅伝も、青山学院大学の圧倒的な強さが光りました。特に往路5区では、早稲田大学の工藤選手が区間3位という素晴らしい走りを見せたにもかかわらず、青山学院大学の黒田選手が2分12秒もの差をひっくり返し、ゴール直前で逆転優勝を果たしました。その勢いは復路でも衰えず、大会新記録での総合優勝。あの強さは一体どこから来るのでしょうか。私なりの考えですが、原監督の指導哲学について少し触れてみたいと思います。

1 「半歩先」の目標設定と共有

原監督は、選手全員に同じ高い壁を強いるのではなく、一人ひとりの能力や状況に合わせた「半歩先の目標」を立てさせることを重視しています。

2 「自律」と「自由」の違い

原監督は、「ワクワク大作戦」など明るいイメージがありますが、実際には非常に厳しい「生活の規律（門限や整理整頓）」を設けています。それは「自由と自分勝手は違う」ことを徹底するためです。

3 「言語化」による認識のズレの解消

原監督は、監督と選手の間での認識のズレを埋めるために、とにかく「言葉にして伝えること」を大切にしています。合宿中も何度もミーティングを重ね、お互いが何を考え、何に苦しんでいるかを共有します。

こうした指導の根底にあるのは、「全員が同じである必要はない」という個への深い理解です。一人ひとりにフォーカスしながらも、集団として最高の力を発揮し、結果を出す。これは、私たちの学校が目指す理想の姿であり、学ぶべきことがあるのではないのでしょうか。

集団として最高の力を発揮するには、個々の違いから生じる摩擦や葛藤を、いかに前向きに収めていくかが重要になってきます。私たちは、一人ひとりが持っている「頑張りのもんさし」が異なることを認識した上で、向き合わなければなりません。私は思うのです。このズレを埋めるために必要なことは2つあると…皆さんはどのようなことが必要だと思いますか？

1 相手の背景を思いやる「想像力」

自分の目に見える景色だけがすべてだと思わず、他者の心にある「見えない葛藤」にそっと寄り添おうとする、しなやかな感性のことです。

2 自分のもんさしを少しずつ集団の基準へと近づけていく「自律」

「自分なりの頑張り」だけで満足するのではなく、集団の一員として自分に何ができるかを問い続け、自らを律していく尊い姿勢のことです。



日	曜	行事	日	曜	行事
1	日		16	月	放課後学習
2	月	放課後学習 公立高等学校出願変更メ切	17	火	放課後学習
3	火	ノーメディアデー 放課後学習	18	水	
4	水	全学年学カテスト	19	木	
5	木	2年生スキー学習 タイ オンライン交流	20	金	会議日
6	金	3年生スキー学習	21	土	
7	土		22	日	
8	日	第51回 衆議院議員総選挙	23	月	天皇誕生日
9	月	1年生スキー学習 会議日 放課後学習	24	火	委員会
10	火	2年生スキー学習 放課後学習 ノーメディアウィーク～12日	25	水	研修日 放課後学習
11	水	建国記念の日	26	木	放課後学習
12	木	3年生スキー学習 1・2年生定期テスト①	27	金	後藤SC来校日
13	金	1・2年生定期テスト② 後藤SC来校日 私立A日程一般入試日	28	土	
14	土		1	日	実用英語技能検定試験2次試験
15	日		2	月	

ありがとう



2年生が壁修理

～公共を支えるボランティア活動～

トイレやホールの壁の破損が目立ち始めた2階の修理について、昨年冬休み初めの学習サポートに来ている2年生生徒に、ボランティアでの修理を呼びかけました。そうすると、大勢の生徒が手をあげてくれました。とても丁寧に仕事をしてくれて、様々な穴がふさがれ、美しくなりました。本当にありがとうございました！

どんな公共の施設もだれかがメンテナンスをしてくれて美しさが保たれています。一方で公園の道端にごみを捨てたりトイレを汚したりする人もいます。「目に見えない物を想像でき、思いやる」公共の物を大切に使える2年生になってほしいと思います。



PTA研修会

～多文化共生手作り餃子講習会～

1月10日（土）潮見中家庭科室16名参加
今年度は1年A組霜鳥さんのお母さんの陽（ヤン）さんを講師に、皮から手作り餃子第二弾を1月10日に開催。中学生&小学生の子どもグループと大人グループに分かれ、陽さんのお話を伺いながら、皮から餃子を作りました。本場の餃子は、おかずであり主食でもあり、ゆで上げる水餃子であることなど日本とは様々な違いがあります。出来上がった餃子は、おいしくておいしくて参加者一同舌づつみを打ちました。対談では、中国ではお祝いの席（特に晴の門出の時）に親戚中が集まって、みんなで餃子をつくり食べるとのこと。その様子を思い浮かべ、人の温かさを感じました。PTAでは2月に**広報誌づくり**も行うので**参加者募集中**です。参加申込QRコード

